

横浜市立中高一貫教育校【横浜市立南高等学校・附属中学校（仮称）】

Q & A

**Q 1：南高校以外に横浜市立の中高一貫教育校を開校する予定はありますか。**

A：現在のところ、南高校以外に開校する予定はありません。

**Q 2：平成 24 年度からの募集定員や学級編成はどうなりますか。**

A：学級数の推移は、下記の表の通りです。

年 度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
南 高 等 学 校	3 年	8	8	8	5	5	5	5
	2 年	8	8	5	5	5	5	5
	1 年	8	5	5	5	4 + 1	4 + 1	4 + 1
附 属 中 学 校	3 年	—	—	—	4	4	4	4
	2 年	—	—	4	4	4	4	4
	1 年	—	4	4	4	4	4	4
総学級数		2 4	2 5	2 6	2 7	2 7	2 7	2 7

\*平成 27 年度から高校の入学者選抜を経て入学する生徒（40 人）の学習進度は、高校 2 年生までに附属中学校からの進学者と揃える予定です。

**Q 3：「豊かな人間性の育成」の具体的な取組例はどうなりますか。**

A：具体的な取組例は、次の通りです。

**【規律ある生活習慣の確立を目指す生活指導】**

礼儀正しい態度、集団生活でのマナー、服装等、きめ細やかな生活指導を行い、生活習慣を確立させ、協調性、規範意識などを育成します。

**【探究型「総合的な学習の時間」の実施】**

市立高校で行う「地球規模の問題について教科横断的な探究的学習」を附属中学校から 6 年間で行うことにより、課題設定・課題解決能力を伸ばさせるとともに、自ら探究する力を育てます。

**【体験型宿泊行事の実施】**

他者と積極的に係わる態度を養うことや、英語によるコミュニケーションを楽しむことを目的とした体験型宿泊行事を実施します。南高等学校において酪農体験型修学旅行（北海道ファームステイ）等を実施することにより、生命や生き方を敏感に感じ取る豊かな感受性と、目標を達成するための行動力を育てます。

**【活気ある特別活動】**

生徒会活動や学校行事を中学生と高校生が合同で運営することによって、協調性や人を思いやる気持ちを育てます。また、他の中高一貫教育校や海外の学校との交流等を通して、多様な価値観を認める態度も育てます。

**Q 4：「高い学力」の修得の具体的な取組例はどうなりますか。**

A：具体的な取組例は、次の通りです。

**【国公立大学受験に対応する教育課程の編成】**

大学入試センター試験に対応するため、多くの国公立大学が課している 5 教科 7 科目を高校 2 年までに学習させます。また、高校 2、3 年生では、各大学が実施する個別学力検査等に対応するため、自由選択科目を設置します。

**【国語・数学・英語の授業時数増】**

国語

中学1年：140時間 ⇒ 175時間      中学2年：140時間 ⇒ 175時間

中学3年：105時間 ⇒ 175時間      高校1年：140時間 ⇒ 175時間

数学

中学1年：140時間 ⇒ 175時間      中学2年：105時間 ⇒ 175時間

中学3年：140時間 ⇒ 175時間

英語

中学1年：140時間 ⇒ 175時間      中学2年：140時間 ⇒ 175時間

中学3年：140時間 ⇒ 175時間      高校1年：105時間 ⇒ 175時間

\*増加した授業時数を用いて、高校の学習内容の一部移行や更なる学力の定着を図ります。

\*他の教科の授業時間数を減ずることはないので、中学1年から高校3年までの6年間、1週間に33時間の授業（7時間授業が3日、6時間授業が2日）を予定しています。

**Q5：入学者の決定方法（適性検査、調査書など）はどうなりますか。**

A：適性検査の日時、適性検査の内容（問題数、時間など）、調査書（様式、提出方法など）、作文や面接の有無、学区外入学許可限度数などの詳しい内容については、平成23年7月（予定）に策定する「入学者の募集及び決定に関する実施要領（仮称）」で公表する予定です。

**Q6：附属中学校卒業後、南高校以外の高校に進学することは可能ですか。**

A：制度的には可能です。ただし、南高校に進学する場合と異なり公立高校の場合は、神奈川県公立高等学校入学者選抜の前期選抜または後期選抜、私立高校の場合は、各高校が行う試験に合格する必要があります。

**Q7：附属中学校と南高校の先生はどうなりますか。**

A：附属中学校には市立中学校から、南高校には市立高校から、本校の教育方針を理解した教員を配置する予定です。また、先進事例について研究するため、他都市の中高一貫教育校に、教員を1年間派遣しています。さらに、南高校の先生が附属中学校の授業を担当するなどの授業形態についても検討しています。

**Q8：施設はどうなりますか。**

A：新たに校舎は建設しません。現在の南高校の施設を附属中学校の生徒と南高校の生徒が一緒に使うこととなります。また、充実した学習指導を行うにあたり、教育課程を展開していく上で必要となる金工・木工室などについては、現在の施設を改修する予定です。

**Q9：学校行事はどうなりますか。**

A：附属中学校・南高校、それぞれが単独で行う学校行事も有り得ますが、基本的には附属中学校の生徒と南高校の生徒が合同で行うことを考えています。

**Q10：自転車通学は可能ですか。**

A：学校までの自転車通学は、道幅が狭く危険なため認めていません。

**Q11：その他**

A：教育課程、制服、諸経費、部活動については現在検討中です。決定した内容につきましては、平成23年7月頃に予定している学校説明会で公表する予定です。